

「スズキ・メソード」共演へ 秀峰オケ 練習に熱



秀峰オーケストラ部の部員たち

が指揮を執る。
オーケストラ部は楽器を始めて3年以内の生徒がほとんどだ。週3日の部活動で個人練習を中心に行い、これまで3回の合同練習で豊田さんの指導を受けてきた。3年生の滝沢愛さん(15)は「スズキの生徒たちは本当に上手。技を盗んで自分のものにできたら」と話し、コントラバスの太田采花さん(15)は「プレッシャーもあるが貴重な機会。レベルアップにつながるよう頑張りたい」と意気込んでいる。(片岡 望)

(第3種郵便物認可)

独自の音楽教育を展開している才能教育研究会の第16回スズキ・メソード世界大会(27～31日)の期間中、松本市内の各会場で市民と研究会の生徒が共演する街角コンサートが開かれる。研究会と教育協定を結ぶ学校法人松商学園の松本秀峰中等教育学校(松本市埋蔵)でも30日、同校の「メサイアより『ハレルヤ』」の2曲で、オーケストラ部が出演するコンサートがある。演奏する3曲のうち、ベートーベンの「交響曲第1番」の「メサイアより『ハレルヤ』」の2曲で、研究会の子供約120人と共演する。指揮は、豊田耕児さん(79)が務める。1曲は部員のみステージで、顧問の瀬川伸教諭